

平成21年1月15日

新宿区長

法人名 NPO みんなののうち  
 所在地 東京都新宿区  
 (フリガナ) ミシマ トモヒコ  
 代表者氏名 三島 知彦

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

## 1 助成対象事業

事業名	食育一步“どろんこの中から愉快的収穫：親子体験キャンプABC”
実施日時又は期間	A 2008年8月1日(金)～3日(日) B 2008年9月13日(金)～15日(日) C 2008年10月10日(金)～12日(日)
対象者の範囲及び人数	新宿区在住親子 子ども達の食育に関心のある協力者(新宿区及び魚沼市在住) A:50人 B:50人 C:52人 総計 152人
事業内容	新宿の子ども達に 泥んこが育てる食材を「知らせる」ことから食育を始める。
具体的な活動状況	A:夏野菜収穫とバーベキュー B:芋掘りと稲刈り C:脱穀とおにぎり作りのABC親子キャンプを実施 野菜(ジャガイモ・胡瓜・茄子・枝豆・カボチャ・里芋・さつまいも・オクラ等)の収穫。稲刈り&脱穀、虹鱒の掴み取りを体験し、調理にも親子で参加した。労働の後、温泉で汗を流し皆で食卓を囲む。帰宅前の時間で親子で、Sケン遊びを楽しむ。
事業の成果	野菜が畑のどろんこに育まれていることや、食卓の皿に並ぶまでに面倒な作業がたくさんあることを子ども達(親も)が知った。 食わず嫌いだった子どもも、自分で収穫・調理体験した野菜を「食べてみようかな?」の気持ちになった。 労働(稲刈り・ジャガイモ掘り・脱穀等)を我慢し、汗をかくことを体験した子ども達は自慢気でした。 稲刈りや脱穀体験をしたコシヒカリを直接農家から購入し「来年も新米を直接購入したい」の声があがった。 区民の社会貢献の機会作りになり、ボランティア参加者が増えた。 魚沼市協力者も、機械化された稲刈りではなく、手刈りや天日干し作業を工夫し提案していただいた。今後も継続できる活動になる。

## 2 助成対象事業費内訳（実績）

内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金	不足分負担		56,127円
	参加費・資料代等	参加者総計152人：参加費有料大人37人×1.2万：子ども57人×0.8万：幼児12人×0.4万：乳児5人×300円計949,500円：参加費無料ボラ：新宿区民18人：魚沼市民23人計41人		949,500円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		450,000円
	計			1,455,627円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	予算額	内訳	
	会議費	円		
	宣伝費	円		
	リース費	円		
	消耗品費	円		
	謝礼	30,000円	調理指導：農作業指導謝礼A2人：B1人：C3人計6人@5,000円×6人	
	人件費	16,000円	@4,000円×4人	
	材料費	円		
	交通費	691,350円	大型バスA片道BC往復計462,500円：乗用車20,000円×2台：A新幹線片道145,950円：マイクロバス温泉入浴含む14,900円：移動車4,000円×7台計28,000円	
	その他諸経費	491,661円	宿泊保険AC85人×233円：B宿泊&行事保険42人×238円 送料120円×3回 計30,161円：利用料（1泊+半日×2）大人55人×4,000円・子供69人×3,500円 計461,500円	
助成対象事業費（小計）	1,229,011円			
助成対象外事業費	226,616円	食費（深夜食1：朝食2：昼食2：夕食1計6食）A72,568円 B72,808円：C77,240円 人件費差額@1,000円×4人		
事業総額		1,455,627円		

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	泥んこまでを「汚れるから汚い」という子ども達も芋掘りや大根抜き体験後、溝で泥を洗ったり、調理に参加することで「食べてみようかな」の気持ちになった。食育の一步を収穫&調理体験から始める目的は達成できた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	食育を共通課題とし、地域親子が誘い合って参加。参加親子や協力者は、労働や温泉入浴や団樂の中で交流した。帰宅後、街の通りでの挨拶を交わすことが多くなったとの報告があった。子どもを見守る地域の輪が広がっている。
新たに気づいた課題は何か。	2泊4日の予定だったが、親の仕事の都合が見つからない声が多く寄せられ、3回ともに1泊3日に短縮せざるを得なかった。 庭でのSケン遊びは親子を喜ばせ、親に自分の子どもの「今の課題」への気づきになった。親子遊びをメインに子育て課題の企画を考慮中である。
理解者や支援者が広がったか。	A キャンプには新宿区内から、ボランティアとしての大人参加があり、その後のBCにも参加してもらえた。魚沼市の農家からの協力者は増え牧場の新鮮乳の提供もあった。都会から親子が来てもらえることが嬉しいとの声が伝えられた。
事務局の執行体制は十分だったか。	NPO 正会員と活動賛同者で運営した。公募からよりも「友人から聞いた」とのボランティア参加が続いた。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	昔の手作業の米作り指導を実施。今後は「コシヒカリを作って食べよう」や、「苗から野菜を育てよう」の継続親子農業体験事業 親が我が子の育ちの今を気づき、育てあう仲間作りを目的とする事業として、「親子で伝承空き地遊び(Sケン)を愉しもう」企画 魚沼協力者の支援を受けながら、夏休みに子ども達をロングステイ田舎体験を提案し、地元と新宿の子ども達の交流を図る事業
その他	チラシを親子が集まる保育園や児童館に配布して戴き、参加者が点在する効果がありました。

参加者からの声

食育 A

子：ジャガイモ掘りは疲れた。暑かった。ニジマスを捕まえてうれしかった。

子：いろんな野菜の名前を覚えた。オクラの花がきれいだった。

子：八百屋さんごっこで いっぱい野菜のお土産があったので、ママが喜んだ。

子：クレーン車に乗せてもらったのがうれしかった。

子：Sケンでママが強かったのが、びっくりした。Sケンをまたしたい。

親：畑でいろんな野菜を収穫したのは、親子で初めてで、オクラやアスパラには驚きました。

親：食わず嫌いが実は親の自分でした。息子が初めての野菜をたべました。

親：野菜嫌いだった息子も「自分で採ったから」とがんばってサラダを食べていました。

食育 B

子：田んぼがぐじゅぐじゅで、足が沈んだ。長靴がぬげた。

子：機械（コンバイン）に乗せてもらった。高くって気持ちよかった。また乗りたい。

子：カラオケが楽しかった。

子：かゆかった。

親：稲刈りはともかく、束ねるのにはコツが必要だった。子ども達には無理のようだ。

親：Sケンも、親も初めてでしたが燃えましたね。

親：コシヒカリの新米を注文しました。酒も土産にします。

食育 C

子：米のザラザラがくすぐったかった。

子：イモ掘りで、里芋と薩摩イモの違いがわかった。

子：大根をもっと抜きたかったけど「まだ 細いから1本だけ」って言われた。

子：枝を燃やすのが楽しかった。けど、「焚きつけの枝を全部燃やしたか！」って怒られた。

子：おにぎり作りの1個目はわからなかったけど、3個目は上手にできた。

親：脱穀機や精米機に子ども達がふれるのは貴重な体験でした。生きた社会科でした。

親：Sケンで、娘が遊び上手なのに驚きました。家や学校とは違う顔でした。

親：稲の脱穀の後 温泉にはいり夕食・・自然をいっぱい感じました。こんな生活もいいな。